



ゆかりびと

第 5 回

一般社団法人つばさ 矢板事業所 施設長
松岡 洋二 さん



輝きのある人生を歩めるように 心を込めた療育を

旧豊田小学校に、障がいがある子どもたちが通う放課後等デイサービス・児童発達支援事業所「つばさ」が開所しました。一般社団法人つばさは、大田原市などで障がい児・者通所支援事業を運営し、発達障がいなど特性を持った子どもの心や身体、言葉の発達の療育(発達支援)などを行っています。県内の放課後等デイサービス事業所は、10年で約9倍となり、子どもの出生数が減少傾向にある中で、利用児童数は増加の傾向をたどっています。保護者間のネットワークを通して、つばさの開所を知った方からは「ぜひ見学したい」「通所させたい」と多くの問い合わせが寄せられているそうです。

矢板事業所の松岡施設長は、「これほど療育に熱心な事業所は他にない」と話します。福祉業界において施設などの職員は、非正規職員の割合が多いのが実状ですが、つばさは正規職員の割合が多くなっています。そこには利用する子どもたちの未来を考え、いい人材を集め、いい職員を育て、いい療育につなげるという理事長の確固たる思いがあるのです。

療育の現場は、毎日が手探りの状態。しかし職員は「子どもたちが10年後、20年後、輝きのある人生を歩めるように」との同じ思いを持ち、真剣に療育に向き合います。「子ども一人ひとりからの言葉や行動から出る意思表示を受け止めて心を開いていく。簡単ではないからこそ、成長が見られたときの喜びはとても大きい」と言います。

「恵まれた自然環境を利用して、子どもたちの生活に彩りを加えていきたい。地域と連携する中で、理解や支援を得ながら地域に根付く施設にしていきたい」と松岡施設長はこれからの思いを馳せました。豊田小学校が閉校して1年、再び学校に子どもたちの元気な声が響きはじまりました。

Editor's Note 編集後記

▷試合や練習は真剣なまなざしで、取材には照れくさそうに対応してくれた高校生の皆さん。一生懸命に取り組む若き翼の輝きは、いつの時代も変わることなく美しく、たくさんのパワーをもらいました。(DYC)

▷つばさの松岡施設長は前職での上司。お互い別の職に就いてからの再会でした。まさか元上司を取材する日がくるとは…広報紙を担当してから多くの方に出会いましたが、このような再会があるとは思いませんでした。(こっこ)